



次は、町の中央付近に位置する「竹下川暗渠」です。県道102号線の竹下橋の上から確認できます。アーチ型の赤レンガは5重層になっていて、トンネルの幅は5メートル近くあり、全体の中では大きい方です。昔はレンガ暗渠の中を、馬車が通っていたそうです。切石がやや飛び出すように積まれていて、当時の職人のデザイン、遊び心だと考えられています。反対側へ回ると、田園と霧島連山が見渡せて心癒される風景が広がります。

次に、「第一会田川暗渠」を案内します。栗野駅から横川方面に向かい、車で5分ほどのところにあります。県道55号線沿いにある階段を下りていくとせせらぎの音が聞こえ、目の前にドドンと背丈の高いアーチレンガと石組みが見えます。9段ほど積まれた切石の上に赤いレンガが4層積まれています。天井が高いのは、下を流れる水量を考えて造ったのでしょう。見た目も美しいですが、立地条件等に合わせて構造を変えているところに先人たちの知恵と技を感じます。

一部を除いて、地元の人にもあまり知られていない暗渠群。今後も線路を支えながら、時代とともに貫禄を増していくことでしょうか。



第一馬置川暗渠（奥）



第一会田川暗渠



竹下川暗渠



竹下川暗渠（上を肥薩線が通る）



丸池湧水暗渠

湧水町 じまんばな誌 ① 肥薩線の暗渠

霧島連山を車窓に、線路はまっすぐ続く。
この湧水町のレールの下に
近代化産業遺産が息づいています。

湧水町に残る14のアーチ煉瓦暗渠

「暗渠」アンキョと読みます。広辞苑を引くと（おおいをした水路。灌がい・排水などのために地下に設けた溝）と出てきます。あまり聞き慣れない単語ですが、湧水町にはわかつていて、JR肥薩線の線路下に14個のレンガ暗渠が残っていて、近代化産業遺産群の構成遺産として認定されています。

きっかけは、明治36年に開業したJR肥薩線の開通100周年記念式典でした。式典に参加した方のひとりが栗野駅横にあるレンガ暗渠を見てびっくり。地元住民にとっては、当たり前のようにここに存在するもので、なぜびっくりするのか不思議なくらいでしたが、「九州南部にアーチレンガはない」という定説を覆す大発見だったのです。

今なお現役のレンガ暗渠

100年以上前につくられた暗渠ですが、今なお現役で線路を支えています。線路の下にあるのでちよつと目立たないのですが、いくつか案内してみましょう。



まずは、「丸池湧水暗渠」。日本名水百選に選ばれた「丸池湧水」の近くにあり、案内標柱があるのでわかりやすいですよ。14の暗渠の中で、唯一、2連アーチ型の珍しい暗渠です。その構造は、駅構内でSLや重量貨物車の往來に耐え、1日に約6万トンを出す丸池湧水を阻害させないための先人たちの工夫なのです。



近代化産業遺産群

JR吉松駅には、近代化産業遺産である蒸気機関車「C5552号」と石倉（燃料庫）が残されています。



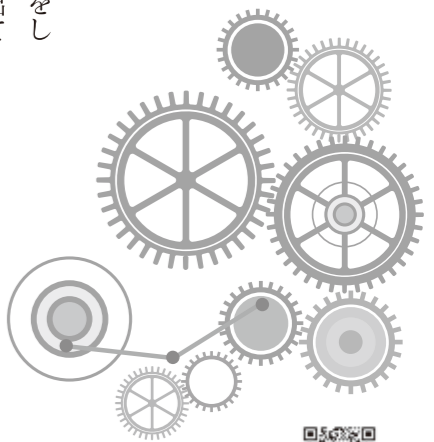
吉松駅（近代化産業遺産 SL）



吉松駅（近代化産業遺産 石倉・燃料庫）

語り手 駒走 健一さん

熊本県の八代市と鹿児島県霧島市を結ぶ肥薩線（当時の鹿児島本線）は、明治36年に開業した。4つの時代を支えた鉄道の下の暗渠に光をあてたのが、湧水町まちづくり推進課長補佐の駒走さん。小さい頃は近代化産業遺産になるとは思わなかった暗渠近くが遊び場だったとか。



詳しい地図へ
QRコード